

行徳総合病院が新築移転、 高機能病院へ生まれ変わる

I M Sグループ



地上12階建ての病院として新築された行徳総合病院

東京都板橋区に本部を有し、東京、千葉、埼玉、群馬、神奈川、北海道、宮城、山形などに70カ所以上の医療・介護施設を展開するIMSグループ(中村哲也理事長)が1日、既存の行徳総合病院(田中岳史院長)を新築移転し(千葉県市川市本行徳5525-2)、108床増床した307床の新病院としてオープンした。それに先立ち2月21、22日には施設内覧会を行い、多くの近隣住民が新しい病院を訪れた。



中村哲也理事長



田中岳史院長

1980年に開設した同院は、“街の総合病院”として市川市周辺の地域医療の一翼を担ってきたが、築30年以上を経て、老朽化・狭隘化が進み、以前より新病院の建設が検討されてきた。このたび湾岸部に土地を得て、地上12階建て、ICU、HCUを備えた高機能病院として生まれ変わった。

新病院として同院は、▽救急医療▽循環器疾患医療▽脳神経疾患医療▽整形外科医療▽消化器内視鏡

治療▽内視鏡外科手術—の6本の柱を標榜。特に脳神経疾患医療では、脳卒中センターを拡充し、12床のSCU(脳卒中ケアユニット)を開設した。中井完治センター長によれば、同院では脳梗塞の超急性期においてはt-PA治療はもちろんのこと、カテーテルによる血栓回収療法も実施。閉塞部位まで血栓を誘導し取り除く手術を行う。また最新鋭の造影装置を用い、循環器内科では心臓カテーテルの治療体制を構築。心臓結果外科を新設し、内科、外科一体となったチーム医療を行っていく。また救急医療においても、専従の救急医を配置することにより、従来の救急室から救急総合診療科に進化。昼夜問わず24時間365日にわたり、地域の健康を守る。各診療科とスムーズな院内提携を行い、現状の2次救急病院から、迅速かつ高機能な2.5次救急病院へのステップアップを目指す。

同院では、新たに医師を招聘するなどして整形外科をはじめ全診療科で医療レベルの強化、向上を進め、近隣の既存病院とも協力しながら、地域医療に取り組んでいく意向だ。

20日開かれた竣工祝賀会で中村理事長は、「この地で新たに診療を開始するが、この病院を地域に根差し、地域に必要なものとなるように成長していきたい」と抱負を述べた。また田中院長は、新病院の理念として「常に患者様を第一に考え、すべての人々に信頼され・満足される病院を目指します」を披露。高次元、高機能と生まれ変わった施設・機器に魂を吹き込んでいくことを約した。



3D撮影が可能な血管造影装置



ゆったりとした手術室で2.5次救急を目指す



12床の脳卒中ケアユニットも配置された



グループ内唯一となるVIP用特別室も用意された